

労災疾病臨床研究事業費補助金

復職コーディネーターによる介入事例
データベース作成に関する研究

(160601-02)

平成29年度 総括研究報告書

研究代表者 豊田 章宏

平成30(2018)年3月

目 次

- I. 総括研究報告
復職コーディネーターによる介入事例データベース作成に関する研究 … 1～13 p
豊田章宏

- II. 分担研究報告
なし

- III. 研究成果の刊行に関する一覧表
なし

労災疾病臨床研究事業費補助金
総括研究報告書

復職コーディネーターによる介入事例データベース作成に関する研究

研究代表者 豊田章宏 労働者健康安全機構 中国労災病院
治療就労両立支援センター所長

研究要旨

脳卒中等により長期療養を余儀なくされた労働者が復職する場合には、疾病そのものの重症度はもちろんであるが、医療費や個々の生活環境やその他の療養状況、および職場環境などが大きく影響するが、これらを多角的に分析した研究は少ない。一方で労災病院においては、治療就労両立支援センターを設置し、平成 27 年度から両立支援コーディネーターを導入したモデル事業を開始している。本研究では先行研究や両立支援コーディネーターの実績を基にして、復職に影響を及ぼすであろう多因子を抽出し、各因子の評価を入力したデータベースを作成することを目的とした。

研究 1 年目にあたる平成 28 年度は、研究班員と両立支援コーディネーターも交えた検討会を開催し、復職に関わる因子として、「患者因子」、「家族因子」、「経済因子」、「職場因子」、「医療因子」と「復職状況」6つの大項目をあげ、この中に14の中項目が入り、全78の小項目を設定した。各小項目には2～5段階評価を与えている。研究 2 年目の平成 29 年度は、これをもとにデータベースのシステム構築を行い、実際の事例を登録して分析が出来る状態となった。平成 29 年度末時点での登録状況は、280 件が開始登録され、うち介入終了事例が 188 例となっている。平成 30 年度は、引き続き事例登録を継続しながら、データベース解析を行う予定である。

研究分担者：佐伯 覚（産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座教授）

研究分担者：木谷 宏（県立広島大学大学院経管理研究科教授）

研究分担者：八重田 淳（筑波大学人間総合科学研究科生涯発達専攻リハビリテーションコース准教授）

研究分担者：大塚 文（広島文化学園大学看護学科教授）

研究協力者：立道昌幸（東海大学医学部基盤診療学系衛生学公衆衛生学教授）

A. 研究目的

長期療養を要する疾病に罹患した労働者が復職する場合や復職後も働き続けながら治療や療養を継続する場合には、通勤や就労時間の配慮、環境整備等の支援が必要となる。この配慮や支援は、普通は主治医の診断書をもとに、産業医の意見をきいて事業者の判断で決められるが、主治医の診断書が復職の前提条件とはいえその内容は判断に有用とはいえないものも多い。また、復職に関する明確な法律の規定がなく、わが国では産業医が常時関与できていない企業も多いため、休職期間、復職後の就業上の配慮等のばらつきが大きいという実情がある。

脳卒中分野で復職を成功させる要因として、①復

職的な方向性を持ったリハビリの提供、②雇用主の柔軟性、③社会保障、④家族や介護者からのサポート等が挙げられている一方で、医療分野における復職支援の希薄さも指摘されている。この点について主任研究者は、発症早期から医療と職場を繋ぐ「復職コーディネーター」の必要性を強く感じており、平成 22-23 年度に厚生労働省委託事業において脳卒中患者の復職支援モデル事業を行わせていただいた結果、70%以上の復職率を得ることができた。この先行研究の成果をもとに、労働者健康安全機構における治療就労両立支援モデル事業では、平成 27 年度から復職（両立支援）コーディネーターの養成研修を開始したところである。

労働者健康安全機構が実施している脳卒中分野の両立支援モデル事業は、現在、中国労災病院を中核施設として、全国労災病院のうち 10 施設で行われており、職業情報、作業能力評価、介入経過などを記録し、復職 1 年後の定着時点まで介入を続けている。ちなみに介入実績は、平成 27 年度 144 例、平成 28 年度 132 例あり、両立支援に関して問題となる点、有用な社会資源、アプローチの仕方など経験値が累積されつつある。本研究では、両立支援コーディネーターが介入し、多職種による両立支援事例の検討を行い、復職後の定着状況や事業場の配慮等についての振り返りを行なったうえで入力する「両立支援データベース」を作成し分析することを目的としている。

B. 研究方法

1) データベース入力項目の設定

産業医科大学の森研究班による復職時点の困難のカテゴリ分類を参考にし、脳卒中患者の復職に関与する因子として、患者因子・家族因子・職場因子・医療因子をあげ、これに復職状況を加えてデータベース項目の素案とした。平成28年9月の第1回班会議で主任および分担研究者で検討した項目をもとに、平成28年11月に開催された第2回拡大班会議では、復職コーディネーター14名も加わって項目について検討し78項目が挙げられ、各項目には3から5段階評価が与えられた。(図1、別添資料1)

2) データベースシステムの作成と入力

平成28年12月からシステムエンジニアが加わってデータベース作成段階に入った。平成29年2月にデータベースの試作が完成した段階で第3回班会議を開催し、入力や解析に関する検討が行われた結果、入力段階でのエラーを減らすためのよりわかりやすい入力項目と評価の見直しが提案されたため、入力項目検討作業部会を立ち上げた。作業部会での数回の検討を経て最終案が策定され、平成29年度前半にはデータベースシステムが完成し、データ入力作業を開始した。データベースへの入力は、中国労災病院を中核施設とし、両立支援モデル事業脳卒中分野参加施設である東京・関東・新潟・浜松・中部・山陰・山口・九州・長崎・熊本の各労災病院および平成29年度からは門司メディカルセンターが加わり計12施設から行われる。データ入力者は各施設で指定され、IDとパスワードが与えられサーバーで管理されている。平成29年度末時点での登録状況は、介入開始事例280件が登録され、うち介入終了事例が188例となっている。

3) 事例集レイアウトの作成

データベースを作成するための両立支援事例は、事例集として蓄積し、データベース項目を検索キーワードとして閲覧できるいわゆる電子事例集としてのレイアウトも作成した。

(倫理面での配慮)

本研究は、主管組織である労働者健康安全機構における治療就労両立支援モデル事業において、データベース化を含めて同意を得た事例が登録されている。また本研究のデータベース入力項目は、個人の氏名、住所、電話番号等、個人の特定につながる情報が一切含まれていない状態で作成された。

さらに、事例集は要配慮個人情報に当たるため、改めて中国労災病院研究倫理審査委員会において審査を受け、承認を得ている。

C. 研究結果

1) データベースについて

データベースの画面構成を図2に示す。ログインは事前に登録したユーザー名とパスワードを入力してからメインメニューに入る設定になっており、パスワードは図3に示すように利用者自身が変更できるようにした。

図4がメインメニューで、事例評価登録、事例検索、パスワードの変更、マスタメンテナンス、ログアウトのボタンを設定した。

図5は事例登録画面である。画面左側は事例のサマリーを入れることができ、右側の入力項目はカテゴリごとに分かれており、評価に当てはまるボタンを選択し入力する。

図6は検索画面である。各入力項目の評価点で絞り込むことが可能である。

図7は事例検索リストで、各カテゴリの因子から絞り込んだ条件に合う事例がリストアップされるようになっている。

図8はマスタメンテナンスメニュー画面で、ユーザー管理や入力項目などの変更や修正が行えるようになっている。

2) データベース入力状況

平成29年度末時点での開始登録事例は280例(男性223例、女性53例、不明4例)であり、年齢は20代3例、30代9例、40代65例、50代84例、60代86例、70代23例、80歳以上3例、不明7例と60代、50代、40代に多かった。(図9)

職業分類では、管理的職業6例、専門的・技術的職業26例、事務的職業17例、販売の職業13例、サービスの職業30例、保安の職業2例、農林漁業の職業1例、生産工程の職業22例、輸送・機械運転の職業20例、建設・採掘の職業19例、運搬・清掃・包装等の職業12例、不明112例である

産業分類では、農業・林業0例、漁業1例、鉱業・採石業・砂利採取業0例、建設業18例、製造業34例、電気・ガス・熱供給・水道業6例、情報通信業13例、運輸業・郵便業25例、卸売業・小売業11例、金融業・保険業2例、不動産業・物品賃貸業2例、学術研究・専門技術サービス業4例、宿泊業・飲食サービス業17例、生活関連サービス業・娯楽業5例、教育・学習支援業3例、医療・福祉10例、複合サービス業1例、サービス業(他に分類されないもの)8例、公務(他に分類されるものを除く)3例、分類不能の産業0例、不明117例である

復職状況は、131例が元事業場の元職務、16例が元事業場の別職務、1例が別事業場の元業務、6例が別事業場の別業務、21例が退職、105例が継続中である。継続中を除く175例の復職率は元事業所元業務が75%、配置転換が9%、別事業所への就労は4%であった。(図10)

休職期間は3ヶ月未満87例、3ヶ月以上6ヶ月未満37例、6ヶ月以上1年未満17例、1年以上1年半未満7例、

1年半以上28例、不明104例である。6か月以内に70%が復職しており、重症例では1年半以上と2峰性の復職時期が認められた。(図11)

職場側に両立支援の実績があるのは2例、両立支援を知らない112例、なし26例と殆ど知られていない実情がある。フレックスタイムについては、対応可能8例、制度そのものがない22例、個別対応79例。時短勤務については、可能8例、不可能22例、個別対応78例。配置転換については、可能8例、不可能22例、個別対応79例。

産業医の関与については、あり50例、なし116例、知らない58例。産業スタッフの関与は、あり25例、なし119例、知らない72例。

医療機関と産業医との連携については、あり7例、なし103例、どちらともいえない38例で、職場との情報共有については、良好27例、不良11例、どちらともいえない78例

D. 考察

事例入力を実施しながらの分析でありまだ不十分であるが、両立支援コーディネーターの介入による高い復職率が認められており、必要休職期間なども明らかになりそうである。一方で両立支援は社会にはまだまだ浸透しておらず、支援を行っていく上での事業場側の環境整備だけでなく、医療機関と産業保健分野との良好な連携構築も急がれる現状もまた見えてきている。

個人情報であり完全な情報収集が難しい点もあるが、今後もより正確なデータ入力とクリーニングを行い登録事例の蓄積を継続していきたい。

平成30年度はデータベースを用いて両立支援に関する各因子の分析に入っていく予定である。さらに検索機能を備えた事例集としても活用できるフォーマットにもしており、内容を充実させていきたい。

E. 結論

データベースを用いて両立支援における様々な因子との関連を解析することで、適切な配慮や休職期間なども明らかにできる可能性がある。

両立支援コーディネーターの経験値向上に寄与することで、よりの確な支援やアドバイスが行える可能性が高まる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

図1

事例登録：評価項目について

- ・評価項目は、78項目あり2～5段階評価を行う

評価対象	大分類	中分類	細大・サブ分類	評価	備考
評価対象	2分類	細大・サブ分類	細大・サブ分類	1～5段階	その他
評価項目 (78項目)	4分類	4分類	4分類	2～5段階	
ソフト評価	なし	なし	なし	なし	なし
評価で使用する評価の区分	あり	あり	あり	あり	なし
現在評価状況・評価	評価	2～5段階	2～5段階	2～5段階	なし
過去の評価状況	評価	2～5段階	2～5段階	2～5段階	なし
過去の評価状況	評価	2～5段階	2～5段階	2～5段階	なし

- ・評価項目は、大分類で6種、中分類14種別に整理する

大分類	中分類
A. 業務効率	業務効率の向上
	コスト削減
	生産性向上
	業務の自動化
B. 顧客満足	顧客満足度の向上
	顧客との関係
C. 従業員満足	従業員満足度の向上
	従業員のモチベーション
D. 品質管理	品質管理の向上
	品質管理の徹底
	品質管理の改善
	品質管理の維持
E. 安全管理	安全管理の向上
	安全管理の徹底
F. 環境対策	環境対策の向上
	環境対策の徹底

*項目の詳細は、別添資料1を参照 (11～13 p)

図2

データベース画面構成

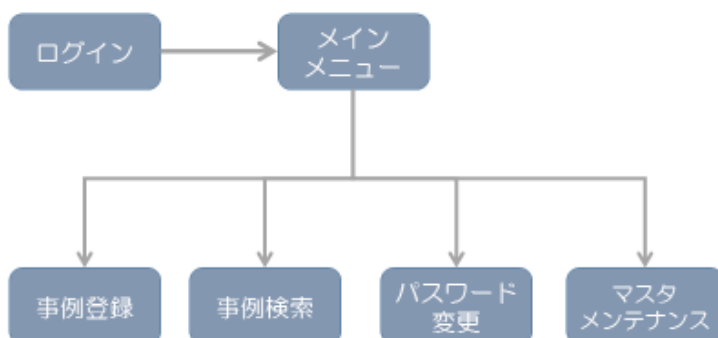


図3

パスワード変更画面

- 利用者はいつでも自由に自分のパスワードを変更できる
- パスワードは暗号化され、管理者を含め第三者には分からない



図4

メインメニュー画面



図 5

事例登録画面

- 事例内容の登録
- 各因子分類による評価の登録

図 6

事例検索画面

- 登録情報の抽出は、評価項目の評価内容別
に出力を行う
- 条件の指定は複数項目の組み合わせで行う

事例ID	事例名	因子分類	評価項目	評価内容	登録日時
0001	事例A	A	認知力	1. 認知力	2023/01/01
0002	事例B	B	実行力	1. 実行力	2023/01/02
0003	事例C	C	記憶力	1. 記憶力	2023/01/03
0004	事例D	D	視覚力	1. 視覚力	2023/01/04

図 7

事例検索リスト画面

- リストから編集画面を呼び出し内容に確認と修正を行う
- 情報をCSV出力しデータの2次利用に活用する

The screenshot shows a web browser window displaying a table titled '両立支援事例データベース' (Case Search List). The table has columns for '検索ID' (Search ID), '事例ID' (Case ID), '事例名' (Case Name), '事例種別' (Case Type), '登録日' (Registration Date), '更新日' (Update Date), and '削除日' (Deletion Date). The rows list various cases, such as '事例アスト入力ゲータ (サンプル) 900', '事例アスト入力ゲータ (サンプル) 876', '事例テスト入力ゲータ (サンプル) 875', '事例アスト入力ゲータ (サンプル) 824', '事例アスト入力ゲータ (サンプル) 783', '事例テスト入力ゲータ (サンプル) 759', '事例テスト入力ゲータ (サンプル) 732', '事例アスト入力ゲータ (サンプル) 721', '事例アスト入力ゲータ (サンプル) 561', '事例テスト入力ゲータ (サンプル) 464', '事例アスト入力ゲータ (サンプル) 454', and '事例アスト入力ゲータ (サンプル) 442'.

図 8

マスタメンテナンス メニュー画面

各種マスタ情報の管理を行う

- ユーザ管理
- 事例入力セット管理
- 因子項目管理
- 事例集項目管理



図 9

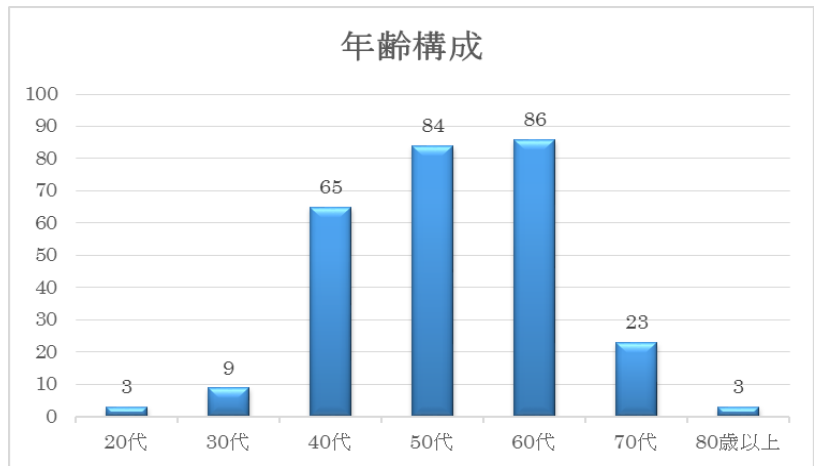
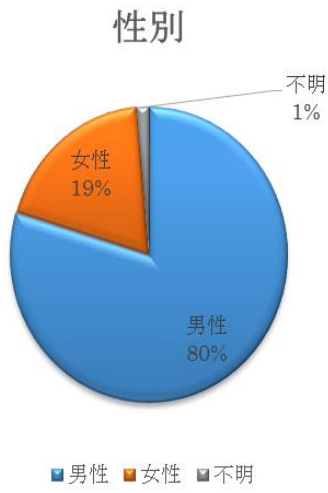
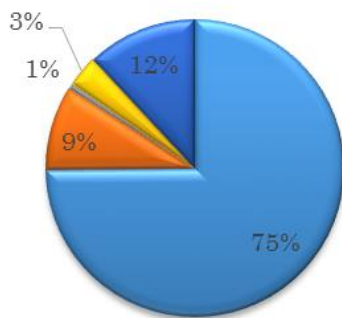


図 10

復職状況

■ 元事業場の元業務 ■ 元事業場の別業務 ■ 別事業場の元業務
■ 別事業場の別業務 ■ 退職



継続中を除く、175例の復職状況

図 1 1



継続中を除く、176例の休職期間

別添資料1 データベース入力項目

A. 患者因子

32項目 ①業務遂行能力低下(13項目) 注意力

遂行機能

記憶力

社会的行動

コミュニケーション能力

視力

聴力

上肢作業能力

作業耐久性

業務に要する移動能力

公共交通機関の利用

自動車運転

安全な通勤

②心理的因子(5項目)

うつ状態

病状理解

障害受容

復職意欲

復職条件に対する柔軟性

③本人背景(8項目)

最終学歴

勤務形態

残業時間(月平均)

シフト勤務

職務で利用する資格の所持

発症前勤務状況・評価

職場での人間関係

家庭での人間関係

④自己管理(6項目)

栄養管理

服薬管理

通院予定など

スケジュール管理

金銭管理

感情コントロール

	5	4	3	2	1
復職可能なレベル			どちらとも言えない		復職不可能なレベル
復職可能なレベル			どちらとも言えない		復職不可能なレベル
復職可能なレベル			どちらとも言えない		復職不可能なレベル
復職可能なレベル			どちらとも言えない		復職不可能なレベル
復職可能なレベル			どちらとも言えない		復職不可能なレベル
復職可能なレベル			どちらとも言えない		復職不可能なレベル
復職可能なレベル			どちらとも言えない		復職不可能なレベル
復職可能なレベル			どちらとも言えない		復職不可能なレベル
一人で可能			決められた環境や 援助があれば可能		不可能
一人で可能			決められた環境や 援助があれば可能		不可能
一人で可能			決められた環境や 援助があれば可能		不可能
一人で可能			決められた環境や 援助があれば可能		不可能
なし			どちらともいえない		あり
良好			どちらともいえない		不良
良好			どちらともいえない		不良
高い			どちらともいえない		低い
高い			どちらともいえない		低い
大学院		大学	短大・専門学校	高校	中学
正社員		契約・嘱託社員	派遣社員	パート・アルバイト	その他
45時間未満			45～60時間		61時間以上
なし			場合による		あり
あり					なし
良好			どちらともいえない		不良
良好			どちらともいえない		不良
良好			どちらともいえない		不良
一人で可能			決められた環境や 援助があれば可能		不可能
一人で可能			決められた環境や 援助があれば可能		不可能
一人で可能			決められた環境や 援助があれば可能		不可能
一人で可能			決められた環境や 援助があれば可能		不可能
一人で可能			決められた環境や 援助があれば可能		不可能
一人で可能			決められた環境や 援助があれば可能		不可能

B. 家族因子							
6項目	⑧家族・社会背景(4項目)	キーパーソンの有無(本人以外) 同居家族の有無 復職に対する理解 通勤時のサポート	あり(家族) あり あり 可能	あり(家族以外) どちらともいえない どちらともいえない			なし なし なし 不可能
	家族の状況(2項目)	家族の健康状態 家族が相談できる人	良好 あり	どちらともいえない どちらともいえない			不良 なし
C. 経済因子							
3項目		家計状況 本人の収入 家族による収入の補填	問題なし 十分 可能	どちらともいえない どちらともいえない どちらともいえない			問題あり 不十分 不可能
D. 職場因子							
21項目	⑤職場背景(5項目)	事業所規模 事業内容(産業分類から選択) 職種(職業分類から選択) 労働組合への加入 健康診断の受診	従業員300人以上 51~300人 あり あり	31~50人 どちらともいえない	11~30人	10人以下	なし なし
	⑥職場の受入れ(11項目)	相談窓口の有無 産業医の有無 産業保健スタッフの有無 復職に対する上司の理解 休職中のフォロー(情報共有) 両立支援の実績 障害雇用の実績 ジョブコーチ制度の活用 職場環境(ハード面) 病状理解(ソフト面) 復職前の試し出勤制度など	あり あり あり 良好 あり あり あり あり 制度があり対応可能 良好 制度があり対応可能	知らない 知らない 知らない どちらともいえない どちらともいえない 知らない 知らない 個別対応可能な場合あり どちらともいえない 個別対応可能な場合あり			なし なし なし 不良 なし なし なし 制度がなく対応不可能 不良 制度がなく対応不可能
	⑦職場の適正配置(5項目)	配置転換 時短勤務 短日勤務 フレックスタイム 在宅勤務	制度があり対応可能 制度があり対応可能 制度があり対応可能 制度があり対応可能 制度があり対応可能	個別対応可能な場合あり 個別対応可能な場合あり 個別対応可能な場合あり 個別対応可能な場合あり 個別対応可能な場合あり			制度がなく対応不可能 制度がなく対応不可能 制度がなく対応不可能 制度がなく対応不可能 制度がなく対応不可能
E. 医療因子							
6項目	⑨職場と医療の連携(4項目)	産業医との連携 相談担当者との連携 連携病院との連携 関係機関との連携	あり あり あり あり(連携先を記載)	どちらともいえない どちらともいえない どちらともいえない どちらともいえない			なし なし なし なし
	⑩情報獲得	職場との情報共有	良好	どちらともいえない			不良
	通院・治療計画	両立治療の可否	可能	個別対応可能な場合あり			不可能

F. 復職状況 10項目	復職時の状況		復職後の状況				
	休職期間	復職先	3ヶ月未満	3ヶ月以上～6ヶ月	6ヶ月以上～1年未満	1年以上～1年半未満	1年半以上
仕事内容	元事業場の元職務	元事業場の別職務	元事業場の元職務	元事業場の別職務	別事業場で元業務	別事業場で別業務	退職
収入	変更なし	一部変更	増額	変化なし	変化なし	変化なし	変更あり
キャリア	昇格	変化なし	昇格	変化なし	変化なし	変化なし	減額 降格
復職後の定着(介入終了時)	復職後の就労継続	1年以上継続	6か月以上1年未満	3ヶ月以上6か月未満	1ヶ月以上3ヶ月未満	1ヶ月未満	
	復職後の満足度(要コメント)	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	
	収入	増額		変化無し		減額	
	キャリア	昇格		変化無し		降格	
	通勤手段の変更	あり				なし	